

いわき市再生資源協業組合

【企業概要】

- 事業内容 再生資源卸売業
- 設立 昭和 59 年 3 月
- 代表者 代表理事 花見 敏行
- 従業員数 36 人（男性：11、女性：25）
- 所在地 いわき市小名浜字林ノ上 19-98
- U R L <https://www.iwaki-ssk.or.jp/>



【多くの女性社員が活躍するいわき市再生資源協業組合】

いわき市再生資源協業組合は、昭和 59 年にいわき市内の再生資源業（リサイクル業）の企業 37 社が出資して設立されました。現在、市からいわき市リサイクルプラザ「クリンピーの家」と、山田粗大ごみ処理施設（クリンピーの丘敷地内）での選別業務を請け負っています。

組合としての活動は社員全員参加型で運営しており、日常業務の他、社外に向けたリサイクル推進活動も活発に行っています。また、社員 36 名中、25 名が女性であり、女性を管理職に積極的に登用することをはじめ男女ともに活躍できる職場づくりに向けて様々な取組みを行っていることから、今回、事務局長の西山奈津江さん、現場の副総括責任者の馬上優子さん、事務局主任の佐藤衣里さんにお話を伺ってきました。

女性が働く意欲を高められる環境づくり、研修や資格取得・社会貢献にも積極的

一御社の女性活躍推進に向けた取組みについてお聞かせください。



【左から馬上さん、佐藤さん、西山さん】

西山さん：当組合では、育児休業給付金制度と合わせて、就業規則に育児休業中は基本給の 10% を支給する定めがあります。また、子の看護のための休暇及び介護休暇の取得期間については出勤したものとみなし、皆勤手当が支給されます。加えて令和 2 年度からは以前から制度化していた育児短時間勤務の範囲を拡大することにしました。これらの制度は社員が安心して家庭と仕事が両立できるよう支援する当組合独自の取組みになります。

佐藤さん：育児短時間勤務については、私が実際にこの制度を現在利用しています。育児と仕事の両立がしやすい制度があることと、そういった制度を利用することに柔軟な対応をしていただけるので、非常に助かっています。また、社員のワーク・ライフ・バランスを図るために有給休暇の取得も推奨しています。有給休暇の取得も、できるだけ個々のプライベートの充実のため取得するように勧めています。ここ数年は毎年 60% 以上の取得率を誇っています。

馬上さん：私は実家の農作業の手伝いや心身のリフレッシュのために有給休暇を活用しています。社員同士で業務内容を日頃から共有し、互いをフォローしあえる体制が構築されているため、有給休暇が非常に取りやすく、気兼ねなく休みを申請することができます。

西山さん：その他にも、育児休暇、傷病休暇中も社内報やメールで社員に対するお知らせ、社内行事参加の案内などを提供し、休業中のフォローも行っています。また、復帰後、本人の希望があれば職場復帰支援プログラムを利用することができ、その参加費用は組合が負担しています。このように、当組合では女性活躍推進に向けて、様々な取組みを行っています。女性管理職が多いのも、このような手厚い支援があってこそだと思います。

一各種研修・資格試験など会社で取組んでいることはありますか。

西山さん：スキルアップアンケートを実施し、男女問わず知識やスキルの習得を支援しています。アンケートは毎年全社員に実施し、業務上必要となる資格や研修の受講希望者を広く募り、資格の取得や講座の受講に際して発生する費用を組合が全額負担しています。さらにアンケートにない項目でも、各人が習得して業務に活かしたいとの申し出があれば、受講申込みが可能であり、昨年は技能員の方 2 名がアンケートにない Excel の講座を自己のスキ



【クレーンの操作でも女性が活躍】

ルアップのために受講されました。

馬上さん：私もスキルアップアンケートを活用し、ここで働きながらフォークリフトやショベルローダーの資格を取得しました。組合では、自分の能力を伸ばすことを支援してくれるので、非常にありがたく感じています。また、当組合ではこれまで女性が少なかった部署にも女性を配置しています。ショベルローダーやフォークリフト、ダンプ運転、クレーン操作等の専門性の高い分野でも、資格を取得し現在 4 名の女性スタッフが活躍しています。やる気があれば会社が応援してくれるので、皆仕事のやりがいを感じていると思います。今後はこの数々の制度が社員にとって当たり前となるよう、利用者を増やすとともに、より一層、周知にも努めていきたいと思っています。

佐藤さん：私もイクボス、メンタルヘルス、ストレスチェック、それに管理者向けの研修を受け、仕事に役立てています。来年度以降は、安全管理の講習を受講し、自身の活躍の幅を広げていければと思います。

社員の気持ちがひとつになった「元気な職場造りプロジェクト」

一より魅力ある職場にするために、どのような取組みが必要になると思いますか？



【震災後の社員の気持ちを支えたポスターを手に】

西山さん：社員全員に満足してもらえるような会社にしていくためには、現状維持ではなく、他社の取組みを参考にし、良い部分を積極的に取り入れていくことが重要だと考えています。そのため、今後は外部との情報交換の機会も積極的に利用していきたいと思っています。また、同時に、これまで行ってきた自社の強みとなる活動を守っていくことも魅力的な職場づくりには必要だと思っています。特にお話ししたいのが、私たちがとても大切に育てている「元気な職場造りプロジェクト」です。東日本大震災のあと、飲料水を購入する世帯が増え、それに伴って家庭からのペットボトルの排出量も増加しました。残業や休日出勤をしても追いつかず、作業員の前には未処理物が増え、元気がなくなってきていました。そんなときに社員同士が声を掛け合い、自分たちの言葉でポスターを作り「ここから元気を発信しよう」と提案されたのがこのプロジェクトです。活動の内容は、月ごとに社員が持ち回りで、元気で前向きになれる標語を考えて掲示するという簡単なものです。ポジティブな言葉を口に出し、意識することで職場の雰囲気も徐々に明るくなってきました。今では標語に見合ったイラストやデザインにも工夫がされるようになっており、年に 1 回最優秀作品賞の選定も行っています。

佐藤さん：最初のうちは抵抗のある人もいたようですが、ここを訪れた外部専門家がこの取組みに高い評価を示したことで社員一人一人の自信につながりました。うれしいことに今では 1 ヶ月に多くの標語が生まれるようになり、毎月のポスターづくりにもメンバーの希望のイメージに合わせて工夫を凝らしています。

西山さん：また当組合では、「エコアクション 21 認証（平成 29 年認証）」、「安全衛生優良事業場受賞（平成 30 年度受賞）」、「いわき市女性活躍推進企業認証（平成 30 年認証）」など多くの賞をいただいておりますが、このプロジェクトを筆頭に、社員の自由な発想と提案を受け入れる体制を整えることで、現場に大きな自信と活気をもたらしてきた結果であると感じています。

一最後に今後の目標をお聞かせください

西山さん：これからも、「元気な職場造りプロジェクト」をはじめとした今まで大事に育ててきたものと、新しい取組みをバランスよく融合し、進化させながら、組合として成長し続けていきたいと思っています。

また、これまで私たちは官公需適格組合として、いわき市のリサイクル事業へ貢献してきました。リサイクル業は身近なものでもあり、小さな気付きや自由な発想を実現できる職場として、引き続き明るく元気に過ごせる環境づくりに取組んで参ります。さらなる発展形として、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けても取組んでおり、世界中の人々が幸せに豊かに暮らす社会の実現を目指し、貢献していきたいと思っています。



【子どもたちへリサイクルの啓発】



【外部向けの講演も実施】